

JA全農ウィークリー

6-7面

全国土づくり大会開催

(耕種資材部)

4面

大分で企業が
レモン生産に参入
(大分県本部・営業開発部)



レモン苗を植え付ける関係者(4面)



「お米甲子園」最高金賞獲得校に全農賞を授与(3面)



全国の優良事例を表彰(6-7面)

- 2 新たに農福連携事業の
取り組みを開始
イチゴ栽培初出荷を迎える
(岐阜県本部)
- 「瀬戸内かきがらアグリ」
三つの賞を受賞(岡山県本部)

- 3 「第12回全国農業高校お米甲子園」
に協賛
(米穀生産集荷対策部)
- 「共同購入トラクターSL33L」
県内3高校へ寄贈
(秋田県本部)

- 5 海外拠点便り
(全農(上海)貿易有限公司)

- 8 「JA全農チビリンピック
第3回 全農杯 全日本小学生カーリング
選手権大会」開催(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
花BOX

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

冬の豊橋産食材フェアを開催
(フードマーケット事業部)



News!



新たに農福連携事業の取り組みを開始

労働力不足の課題解決に向け第一歩

岐阜県本部

8

働きがいも
経済成長も

10

人や国の不平等
をなくそう

岐阜県本部は2021年度から「農業分野での障がい者が活躍できる場の創出」と「農家・JAが障がい者雇用する際のアドバイザーとなるような知識・経験の習得」を目指して、岐阜市の「いちご新規就農者研修所」にて農福連携事業を始めました。



初出荷を迎え笑顔のスタッフと全農関係者

初年度の取り組みとして、研修所内のハウス1棟を農福連携専用圃場とし、障がい者3人と支援者1人の体制でイチゴの栽培（栽培面積5坪）を始めました。7月以降、苗管理や定植、管理、収穫、パッキング詰めなど一連の作業を学び、11月26日に初出荷を迎えることができました。

穫・出荷作業は、今年5月ごろまで続く見通しです。3人とも農業の経験はほとんど無い中、日々の指導から多くのことを学び、「やりがいを感じている」「できなかつたことができるようになった」と、確かなレベルアップを感じ、さらなる技能・知識の向上を目指して前向きに取り組んでいます。2022年度は関係者一丸となり、栽培面積を10坪に拡大することを目指します。

岐阜県本部では、農福連携の輪を広げる一役が担えるよう、また安全・安心なおいしいイチゴを消費者の皆さんにお届けできるよう、これからも誠心誠意取り組みでいきま

News!



「瀬戸内かきがらアグリ」が三つの賞を受賞

SDGsな取り組みとして多方面から評価

岡山県本部



おかやまSDGsアワード賞状



グッドライフアワード表彰式の様子
(右:佐賀県本部長)

「瀬戸内かきがらアグリ」は、瀬戸内海で水揚げされたカキの殻を農業分野で再利用し、農産物の生産性を高める取り組みです。通常ゴミとなるカキ殻を土づくり資材として使用したお米を「里海米」、鶏のエサに添加して育てた卵を「里海卵」と

岡山県本部が事務局を務める「瀬戸内かきがらアグリ推進協議会」が行う、地域循環環境保全型事業「瀬戸内かきがらアグリ」がSDGsへの取り組みとして多方面から評価され、このたび三つの賞を受賞しました。

してブランド化し、食べることで里海である瀬戸内海を守り、育てる活動に参加・支援することができ農産物として、生産拡大に取り組んでいます。現在、園芸品目での取り組みも進めており、「里海野菜」の生産拡大も目指しています。

この事業がSDGsへの取り組みの観点から、多方面で評価をいただき、3つの賞（第6回おかやま協働のまちづくり賞「大賞」／おかやまSDGsアワード2021「優良な取り組み」／第9回グッドライフアワード「実行委員会特別賞森里川海賞」）を受賞しました。

今後はより多くの方に「里海」の理念を知っていただき、取り組み・活動の認知向上につなげていきたいと考えています。



「お米甲子園」最高金賞獲得校に全農賞を授与

最高金賞は石川県立七尾東雲高校が受賞

米穀生産集荷対策部

最高金賞を受賞した石川県立七尾東雲高校の皆さん



全農は、2021年11月27日に開催された「第12回全国農業高校お米甲子園」に協賛し、「最高金賞」を受賞した石川県立七尾東雲高校に全農賞を贈呈しました。

「お米甲子園」は全国の農業高校生たちが育てたお米のおいしさを競う大会です。全農は、食・農の未来を担う高校生に「日本のお

米」に誇りを持ち、その伝統を受け継ぐとともに、さらなる発展を目指してほしいという開催趣旨に賛同し、今年度で3回目の特別協賛となります。

12月14日にはオンラインで表彰式が行われ、米穀生産集荷対策部から、お祝いの言葉と共に全農賞（国産牛ステーキ肉、ニッポンエールご当地グミ、東北コトントートバッグ）を贈呈しました。

全農は、お米甲子園への協賛を通じて、未来の米作りを担う高校生を支援するとともに、お米への関心を高め、お米の消費拡大を図っていきます。



「共同購入トラクターSL33L」県内3高校へ寄贈

農業実習用として活用

秋田県本部



農業実習用として寄贈された「共同購入トラクターSL33L」



12月7日に開催された寄贈式

全農が開発した「共同購入トラクター（中型クラス）SL33L」が、農業分野の学科やコースがある秋田県内の3高校へ農業実習用として寄贈されました。

これからの農業を担う人材の育成支援として、「共同購入トラクター」が能代科学技術高校、西目高校、大曲農業高校に対し各1台、JA共済連秋田の取り組みにより贈られました。

の場面で活用し、生徒の皆さんに操作経験を通じて技術を習得してもらいたい」とあいさつし、目録を贈呈しました。県教育庁高校教育課の渡辺勉課長は「生徒の就業意欲を喚起し、秋田の農業を支える人材育成のため大切に使います」と感謝を述べました。

秋田市にある秋田県本部農機製品倉庫で行われた寄贈式には、各校の校長や生徒、JA代表者や秋田県本部長ら関係者が出席しました。JA共済連秋田の斉藤一志会長は「さまざまな実習

式典に出席した各校の代表生徒たちは、早速トラクターの乗り心地や操作方法を確かめていました。各校では春から田んぼの代かきや畑を耕す実習などでトラクターを使用する予定です。

大分県で2企業が「レモン」生産に参入

行政やJAと連携し支援 産地拡大目指す

大分県本部は、行政やJAと連携し、企業参入による産地振興を支援しています。「マリンレモン」の産地として知られる佐伯市で、小川香料(株)と南信州菓子工房(株)による、国産レモンの生産を目的とした現地法人の立ち上げを全面的にバックアップしています。

【大分県本部・営業開発部】

レモンはインドのアッサム地方が原産で、地中海沿岸諸国に伝わり、特にイタリアで栽培が盛んです。日本へは明治の初めに伝わっており、広島県や愛媛県、和歌山県と、とりわけ温暖な地域を中心に栽培されています。大分県内では1958年から、主に佐伯市で栽培しています。

小川香料は、香りにこだわった国産原料を自社で生産し、地方農業活性化のため、また、南信州菓子工房は、生産者の高齢化と老木化により生産縮小に向かっていることから、農業参入を決めました。

植栽に至るまで

行政の協力もあり、耕作放

棄地となっていた旧柑橘産地を、小川香料が佐伯市米水津色利浦で約8畝、南信州菓子工房は同市蒲江町畑野浦で約10畝の規模で集積し借り受けすることができました。

その後、小川香料は2018年8月に現地法人「小川香料おいた佐伯農場(株)」を、南

信州菓子工房は2019年5月に「大分佐伯ファーム(株)」を立ち上げ、行政・JAと連携した会議を開催し、情報共有と事業内容の確認を行っていました。

両社は2021年3月からレモン苗木の植栽を開始しました。小川香料おいた佐伯農場は2022年3月までに約8

畝で約4000本、大分佐伯ファームは2023年3月までに約10畝で約6000本、合計1万本を植え付けする予定で、大分県本部も一緒にレモンの植栽などを行い、一丸となって生産振興に取り組んでいます。

耕作放棄地を園地化することが生産振興・地域の活性化につながることから、大分県本部は行政・JAと連携し、産地拡大に取り組んでいきます。また、営業開発部は今後、このような企業参入の取り組みをJAグループ内において広げていきたいと考えています。



植樹祭の様子(小川香料おいた佐伯農場(株))



現地のスタッフと



レモン苗の植え付け(大分佐伯ファーム(株))



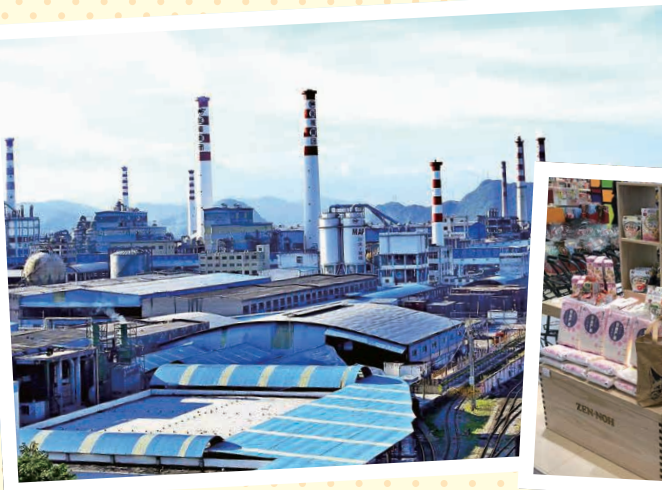
大分県佐伯市の農産物

全農（上海）貿易有限公司

中国における原料調達や 日本産農産物の販売拠点



江蘇省蘇州市内の小売店舗で
日本産精米および加工食品を販売



全農グループのリン酸肥料工場（貴州省福泉市）



全農上海の社員一同

全農（上海）貿易有限公司は、2020年8月に設立したばかりの全農グループの現地法人では一番若い海外拠点ですが、その歴史は、(株)組合貿易上海駐在員事務所として開設された（1991年9月）約30年前にさかのぼります。全農

グループ会社再編で、2005年10月に全農グリーンリソース(株)上海駐在員事務所に引き継がれましたが、一貫して、当初からの事業目的であるリン鉱石やリン酸肥料を中心とした肥料原料、米麦用フレコン袋などの生産資材の調達業務に携わってきました。

さらにさかのばれば、全農本所旧肥料農薬部が編さんした「全農肥料輸入業務40年史―海外挑戦の軌跡」によると、戦前の1935年には、全農の前身である全購連が大連に駐在員事務所を開設して、満州各地にあった搾油工場から肥料用大豆かすの調達業務を行っていました。海外拠点としての上海は、中国における

生産資材原料調達の歴史を引き継ぎながら、現在まで事業を継続してきたと言えます。

当社が設立してからは、新たに日本産食品の輸入販売事業をスタートさせました。輸入規制が強い中国では、販売可能となる品目範囲が精米や加工食品（酒類を含む）に限定されていますが、今後、和牛、青果、乳製品など幅広く輸入解禁が進んでいくことが期待されています。

時代や体制は変わっても、中国における原料調達や日本産農産物の販売拠点として、今後もJAグループと海外をつなぐ事業の構築と発展に貢献していきます。

スタッフに聞く イチオシ現地食

上海と聞けば、「上海ガニ」を思い浮かべる人が多いと思いますが、当社スタッフのイチオシは、上海の家庭料理で定番中の定番とされている上海版ボルシチ「羅宋湯（Luo Song Tang）」です。酸味に甘味が加わり、豊かな香りを漂わせます。脂っこくても飽きず、滑らかでさっぱりとした上海独特の味が、各家庭で作り上げられました。これほどまでに上海に普及した背景は、1917年のロシア革命にまでさかのぼります。この革命によって中国にもたらされたものは共産主義の思想だけではなく、多くの非共産主義勢力の移民たちが持ち込んできた食文化もあったのです。



上海版ボルシチ「羅宋湯（Luo Song Tang）」



表彰者記念撮影

「全国土づくり大会2021」 未来の食のために」開催 全国の優良事例の表彰と事例発表、 基調講演などを実施

全農は2021年12月2日、新横浜プリンスホテルで「全国土づくり大会2021」未来の食のために」を開催しました。Web参加も含め、JA、経済連、全農県本部、土づくり関係肥料メーカーの関係者ら200人を超える方が参加しました。

【耕種資材部】

今大会は、「土づくり」が健康的な農地土壌の保全を通じてわが国の食や環境を守り、持続可能な社会づくりに貢献することの意義や価値を消費者へ伝え、生産現場における「土づくり」の意欲がさらに高まるといった循環の輪が拡大することを目的として開催しました。全国の優良事例の表彰と事例発表、講師3人

による基調講演、全農の取り組み紹介などを行いました。

来賓あいさつで農水省農産局農業環境対策課の佐藤課長から「みどりの食料システム戦略の取



全農富田常務





川瀬氏と金田氏の即興ディスカッション



表彰されるJA阿蘇の伊藤課長

優良事例受賞JAと発表内容

ブロック	県名	JA名	発表者	タイトル
北海道	北海道	JA新すながわ	室井文博氏 大関光敏氏	「『ゆめびりかの里』～すべては美味しさのために～」
東北	岩手	JA新しいわて	幅一也氏	「てんろ石灰を用いたキャベツ栽培について」
関東 甲信越	千葉	JA市原市	地引秀太氏	「土壌診断を軸に産地全体の施肥体系を構築 更に産地の高みを目指して JA市原市と姉崎蔬菜組合の想い」
北陸東海 近畿	石川	JA松任	中田昌孝氏	「総合的な土づくり推進」
中四国	島根	JALまね	久井和徳氏	「土壌診断をきっかけとした土づくり推進活動」
九州	熊本	JA阿蘇	伊藤照行氏	「特A米獲得に向けたJA阿蘇の土づくりプロジェクト」



り組みに欠かせない鍵のひとつが『土づくり』である」との言葉をいただきました。

基調講演では3人の講師に、さまざまな観点から「土づくり」について講演いただきました。

秋田県立大学名誉教授の金田吉弘氏は、「日本の土は大丈夫か」と土づくりに向けた国民運動へ」と題し、総合的土壌診断の必要性と、養分状態だけでなく土の状態を見て、触って総合的に見る事が重要との話や、「土づくりは『今』ではなく未来のために汗を流すことであり、SDGsの基盤でもあることを消費者に伝え、国民運動に発展させたい」と講演いただきました。

TOKYO FM「あぐりずむ」のラジオパーソナリティーでもある川瀬良子氏からは、「川瀬良子のおいしくて楽しい菜園ライフ」と題し、農家が発信する情報が増えて農系Podcastが注目されているが、「土」に関する情報はまだまだ少ないこと、農業（畑）と消費者の間にはまだまだ距離があることから、SNSやイベントでもっとPRをするべきとお話をいただきました。また、川瀬氏と金田氏の即興のディスカッションが行われました。

全農の戸井和久チーフオフィサーは、「生産と販売をつなぐ食農バリューチェーンの構築」をテーマに、「農産物は3S(Spec iality, Solution, Sustainability)を持っており、ストーリーを深掘りして商品の魅力を引き立たせることができるはずであり、生産者の思いが見える形でストーリーを提供できれば本当のプロダクトアウトとなり、マーケットインに負けない差別化商品となる」と訴えました。

最後に、全農の取り組みとして、耕種資材部技術対策課田中達也課長が「歩先の土づくりを目指して」として、全農が現場と一体となって取り組んでいく具体策などを紹介しました。

今回の大会の様子は
YouTubeで視聴できます。

検索方法

- ① YouTube
「全農耕種資材部」で検索
- ② 全農耕種資材部
チャンネル内の再生リスト
「全国土づくり大会2021」をクリック

「ニッポンの食」で子どもたちや元オリンピックらを激励!

「JA全農チビリンピック2021」

第3回 全農杯 全日本小学生カーリング選手権大会を開催

全農は2021年12月26日、神奈川県横浜市の横浜銀行アイアリーナで「JA全農チビリンピック2021 第3回 全農杯 全日本小学生カーリング選手権大会」を開催しました。

【広報・調査部】

2年ぶりの開催となった本大会には、全国各地から8チーム約40人の子どもたちが集結し、熱戦を繰り広げました。



食材を手に笑顔を見せるゲストら

ゲストに元オリンピックの山口剛史さん、小笠原歩さんらを迎え、試合前に披露したデモンストレーションでは正確なショットに会場が拍

手に包まれました。

また、カーリング大会では恒例の「もぐもぐブース」を設置し、出場チームの都道府県のジュースをはじめ、全農ブランド商品をそろえてエネルギー補給をサポート。子どもたちやゲストは笑顔で食材を選び、「おいしい!」と頬張っていました。

全農はこれからも、子どもたちの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

全農Twitter

「全農広報部スポーツ応援」アカウント

https://twitter.com/zennoh_sports



ゲスト・子どもたちの集合写真



ゲストによるデモンストレーション



優勝チームに副賞を贈呈

■試合結果

- | | |
|-----|------------------------|
| 優勝 | 盛岡カーリング
スポーツ少年団(岩手) |
| 準優勝 | チーム西日本 |
| 3位 | 帯広CA(北海道) |
| 4位 | 新潟ジュニア(新潟) |
| 5位 | チーム青森キッズ(青森) |
| 6位 | T・Cジュニア(東京) |
| 7位 | 軽井沢Junior(長野) |
| 8位 | チーム山梨(山梨) |

■賞品提供: 全国農協食品(株)、全農パルライス(株)、
JA全農青果センター(株)、JA全農たまご(株)、
JA全農ミートフーズ(株)、全農チキンフーズ(株)、
協同乳業(株)、酪王協同乳業(株)

■特別協賛: JA全農

JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

花BOX

東北の生産者が丹精込めて育てた切り花を、専用BOXに入れてお届けする「東北六花」です。購入した花を飾っていただくことで、東北の花き生産者を応援する企画となっています。BOXを開けたときの感動を、ぜひ体験してください。

プレゼントにはもちろん、お店などに飾ったり、家族や友人とシェアしたりと、さまざまな楽しみ方でご利用いただけます。

※写真はイメージです。テーマに沿った季節の花を厳選して入れています。



東北六花 Lサイズ(約45cm・25本前後)・・・4100円(税込み)



ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。